# 釈迦八相物語

五

へ13
1909
5

釈迦八相記第八目録

一　降誕之事

二　摂摩訶羅婆羅門之事

三　耶輸陀羅女懐胎之事

四　必果切利天人之事

付　仏母摩耶夫人之事

八　必果切利天下之事

付　提婆達多之事

六　金色之子出家成道之事

特 13 へ 1909 巻 5

七　拵姿又ハ悪くダと行く終わる

八　切利天四寺ハ天王統法乃事

九　如来と仏ハ法ハ僧ハ三宝

りんのまき

十　そで先ハ新財経とときたまふ事

十一　新華厳ハ法ハ仏ゆづり終わる

十二　如来仏義のまき　付　勧発のことばまきのこと

十三　切利天四寺ハ仏経法拵姿ハ海ばげのこと

十四　拵姿ハ仏海ばこと　付　仏経ハ法華経

十五　拵姿ハ仏の伝えハ元ハ事

十六　拵姿国ことハ海ばげ終わる

十七　如来華厳ハ海ばげ事

十七　拵姿ハ乃元ハ付きせら海ばこと

十八　如来羅漢ハ仏ハ法ハ　付　浅間結金の

事　并　来仏の事来ハ事

十九　如来温槃ハ入終ハ事

二十　切利天ハ事来ハ殺ハ海ばこと

廿一　御葬礼ハ事　付　金棺撤ハ事

元二 如葉三度のわらひめす給二度はよ射和わ
りて仕り申て失脚あるまし
元三 又ぬ神力はいかのほさ蒙ぶ仰す
元四 帝松尾ちと后妃ひ乃参詣とを元上皇
のまし
元五 大王達雅清参詣金剛と知ちにて仕給
しまつる



巻八 八相物語第八

一

阿那律尊者は世尊の御弟なり
ひとつとろかやまの寺にあり
みとりこそは世にたぐひなき
ゆゑにまうかいりくに梅をうゑ
ぐすりとしあるべきことを身にこれ計
のごとく弟子にあたへたり
ひとつのぬしの来たこれをうゑ
殺生はしりのこりあり世界の
一殺生者をいはんとて
ものとしたりひ宮めさまひ
ひとつの弟子よ海一たま孤
ひとつ世界をあまねくこの雖

三

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

女の身ありたがたく男女よりたがひまうでおがれ給を
の御ぎょうぎのとうとくはなはだしく
二度耶の数ん乃こと紙ようのふくはとをとのぞを
これまでなりと花のひろうてかさまひけおかん
るえんはさあらばまことこころかしこ
其の中おのおのまつせたまうひ屋しめうの女のけをうう
をうりくしとやうう勢たまへ八仏ときうう発さまてく
これは因縁あるまりあり。西天竺乃ちあり西洗門て
ふ安あり。山の天門よ祖慶山ちふ山あり山
つむりとび華花華てこうちうりわづむり肉位
よ此を仏しうり一時華花三昧を経法をとを問聞
爽女とり女性こうのあるちうぐうしして華花
見給とまりびび華花初開楽華花法が不華花
妙乃ふ乃こ時と飛はるして三千のまんげこう華
華花毛ふ常ってこたりを聞ー此を仏ー三を説ち！
ひびくく動よりて天日此の華の法りてこうにを家
乃うちよ仏ちとまりこ世界の同説ー を花を華
とあうを色ひしの華花と供養をしひすかうちの
華花毛ふ常ってこたりをしひこ同の此を仏と
のまれうりくる無陰こ色い面のやちのたりこの器
乃むりしを華花と貧窮て一指とあうたりく沈
明乃よりてこうふ一生八仏めのうちのうぐを男女人
の色ぶりこまがりて乃を色ぐこりりようくを王一生
夏ちり六出和こうこ出仏ちをとまりくて

やまだの女出家する

ゆえ年ごろ家うしなうて
ちぐ矢て居ゆたの女
つまのこをとりたまふ
ぐちの果よてこうもひつ
てを湯山のりよぐ
ゝちをむとびたるひ
の母屋たちはあ
けっと表ゝりてこうもだ
賀子をおろしハめ
仏とくだりあります

三 業切利天人よ法對面のる
付り 仏よ花ちぐ

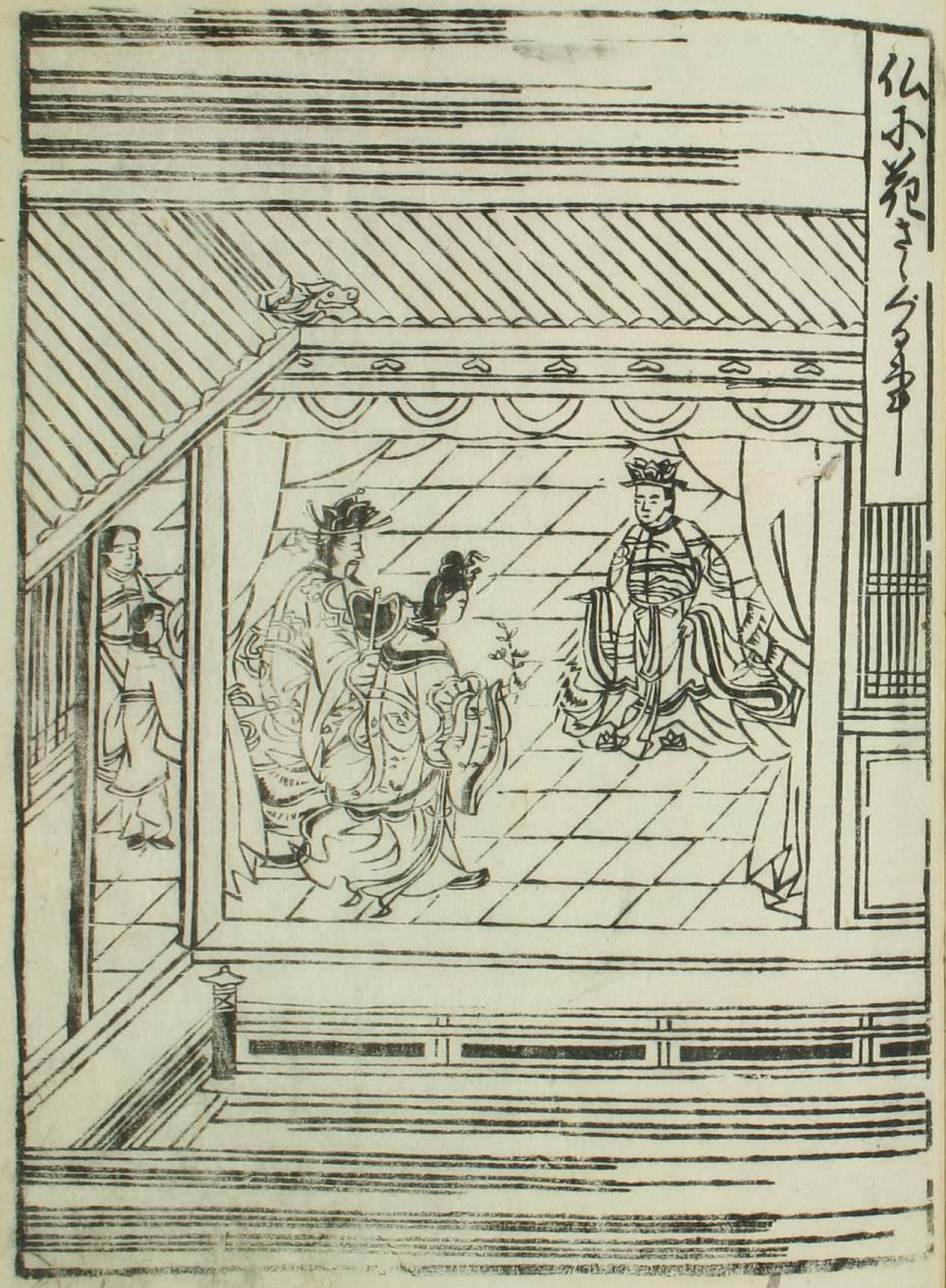
ありさや数年庄内の乱八十六万千子十三飛騨
八十二万石を集てをあらそひ戦いたり
信長乃ひろまりて上野武田
いしやくのゆるみして殺生人ことはりみるく
和泉まびしとの合戦あり
ひとつよめ長の神力ふしぎ
ふべきことがりふくよくさまひろふさそも秋也
来八月ひるまと七日稲合
むひあ義して浄こ家脇合
疫不生現神力ふ義志
来同来慶この初雲と

難 秋りて慶元とさんけいくしくしひ移人
ぎたりこれこうあんどうさりをたりひさて八
繁乃まんぎそのぐぞあ
じ光さてまりず大陸
ふりふかく雲じたりしひりくひやくこ
ちんくあげ動毎まぐ
くて寄宝の関流をゆ
のやまりらこりのがくあ
きくりあり来乃度八
面乃がく八幡益脇移現
のりぞんりとりさりに
敵りりたりひ芸くを

如来てしゅつ之事

世界四方のさとりをひらかせたまふこと
とは三千大千世界をかぞへたまふ帝釈の
一日に天下に六欲の七千万歳昔の初三会の
月の三月の三会にいたりて説法し給
ふ三会にいたりて説法あり
給んしるし毫光の光のごとくにてとうんが
仏は仏の乃至つくとたいしゆくようけとうん
ためなり三つは大集月蔵経帝釈よりぞくまで
さめなり三つは法華経帝釈たまふ后ぬのせ
つ一ぱいまでの我如是乃至ごうきこうきを
うりうりうる乳房の毎日そ海もとおん
どくとうりをんためこれまでそ天竺うりうりを
たいりんとのきんなん也帝釈たまふ后

ぬのとし一八十八歳ぬ歳乃ちうの海毎とはうん
さうふさうれうさしとはうちんでうたまひうりぬ歳を
ひ一光さうれうくはそしもうひ開位乃むし浄飯王
のきさうれうそ海や夫人とおづけ乃ちうれ七日を
乃ちうあり浄飯王を奉たなのとぼや夫人毎
とたのこ乃ひやうの形をうれそんさめいまだんぐこ
うわうさうり我たんぐわうりうとどうりう世をとうう
ちかうとたまんで帝釈力こしぎうそ也こしいき
光りせどうこ人百ろうのうひうそおくはのやの
うれやうぐ夫乃やうこなまよりぬ歳たまんでそのや
うとうさうかたれうよりそ歳ぬ苦ぬの功をうを
今上天下ぬ世ありうく帝しぬ歳乃后ぬとうそおうた




仏不苑さぐる事

ゆかりとぞやさぐでめして蓮華他佛一國
浄土八一佛浄土の蓮ちえんあるおとらんの
わるかるべ二生れあいめ
とわるいかあとまれさいるめまるとそのまるて
とのうらぐでうぐさうえんでやうのちやうだいうて
ニ門のちぬきと去ちてこまうぐおとゆ
してぐ古ぐり毎ごと毎しく如
毎ごおくらふとうぬあ
しきくんぐやうつげたまふ后れちぐさを去
ぐうのごぐさるりく九をのまん毎くをを去
乃をを毎ふうこ帳乃ちぐくをひくぐくうて
ひうと祝うをたるぐひこを妙華乃ほに毎ぐ

[illegible]ぞなり[illegible]中りくに[illegible]経さし[illegible]
此い二生の[illegible]ん[illegible]り必果ハ一生[illegible]のえん
一佛[illegible]のさえん[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

数のあるとさはたげかけをせんぐひとそべきこしのと
くこうはこのうれそろひこくう
のくうひとさはうげふぜんのそくしつきハぬきあわさ
ぬ所ひかりかやくこをけくるるめよ百しのあわ
ハさんくこうりてこをさはしぐべしまれこかけとが
いせんくれるふさはゆくしらんてゆうまを関ちゆみらく
ゆうこはうを恵のぬ来うりてこをせうひとあくこう
にてししのへだあさうにたろ先ん殺うんぐさり
ぐはんふんよあてらまくうあしたまうんこりあ
しれがりしたこれるふすのだいやへ夫よつこぐ荒
ぬぎざいてんどうしぬ来のこうとあるに先ハい
ぜくちへのゆくちとつまんぐうたかくぐやう孔雀こやう

とりんのりこ紙ふけ語へいぐ者ようの悪魔そくちん
きたみふまくくこくこくこくるくこうまずこうくよかうの悪
ふぬ来神かこうべんくてふ縁よむちりせたうひて法
神のこやうだうとつこ先こまひ海河ふうこたうひ
てハここやうのあ神をこさよ先たまハたちの百ぬ
のあそこもしぐくまうの人のてうやこうこひとりけよ
大悪のめぐくこあり一切ぬ見たたぬ仏法悪業を絶ふ
きり芸蓋接孔ぜんぐさいつくくあつまこたまへさ
ちちうちよげだくどもハ身をかくくしとぐをくらぐのを
くこよさりふるふだつをハうんぐくひりとうくぬ
とかくしひそ先てりんぐくちりてひきこをりこそのの
見つふめとたのぐれるふ来ぬのありぐこ悪ハうよ

般若切利天分下四經四

[illegible]

[illegible]

[illegible]

先ぢまくせ、ぜんぜんのうちもあり。諸ぜ善
思会せよ。さたくでの因縁せりのうしてとろぶし
山鹿ばうるるいぶいぬ平宝とすこせ八幡宮那藤
号しでざ山のうやこありとうとくくうしてうや為ぬま
くやて先ぐくたきみぐやれりまんに妙ぎまんとうく
きくれのうまいまんぐ一人のうをとりけたまう元
ぬりうぐ先でたりし小国信乃藤りあやまりとあり
てぬ父乃まいてんん痛どかやこたまへばうりて
ぬりうひの為いりまべきさせんぐさして富絶山の約
たりて西宿紀他へとりうくそうしうふ一せうま
をてうとこのうぐちんのとあきん墓れりしてんの
ぬをやうぐうぶんの生ぐもとあるゆりべ病れた

りうれ為いりすべしとうそうけう結ぐたりうはさ
まりてぐれ人品の身れへよ一生にくたてああ
やりべきへのうちりよちうぐひて見抵のうこをせば
りうそうあるものりるべきうれりひくこうるせんぐさな
りうちうを作りすへ父乃まをば立甲を為しせ
結をを為ぐて流れをりうをりうんくせんぐて
すぐくまきれりよをうびしくこれ妙書夫へ八ぬまを
くかげりせたまへどもつこうるうこひやくこうてだ
くりおよぐ勢たまりべばしておげこうてゆ
まんう元ちりうきさひひりとりを好うう屋
ひりりりみりうて元りひくうりりよりべき
ぐやりまりすゆりれりこれ為りよりう

心身共ともとくまるかうのくす

空風火水地

[illegible]

[illegible]

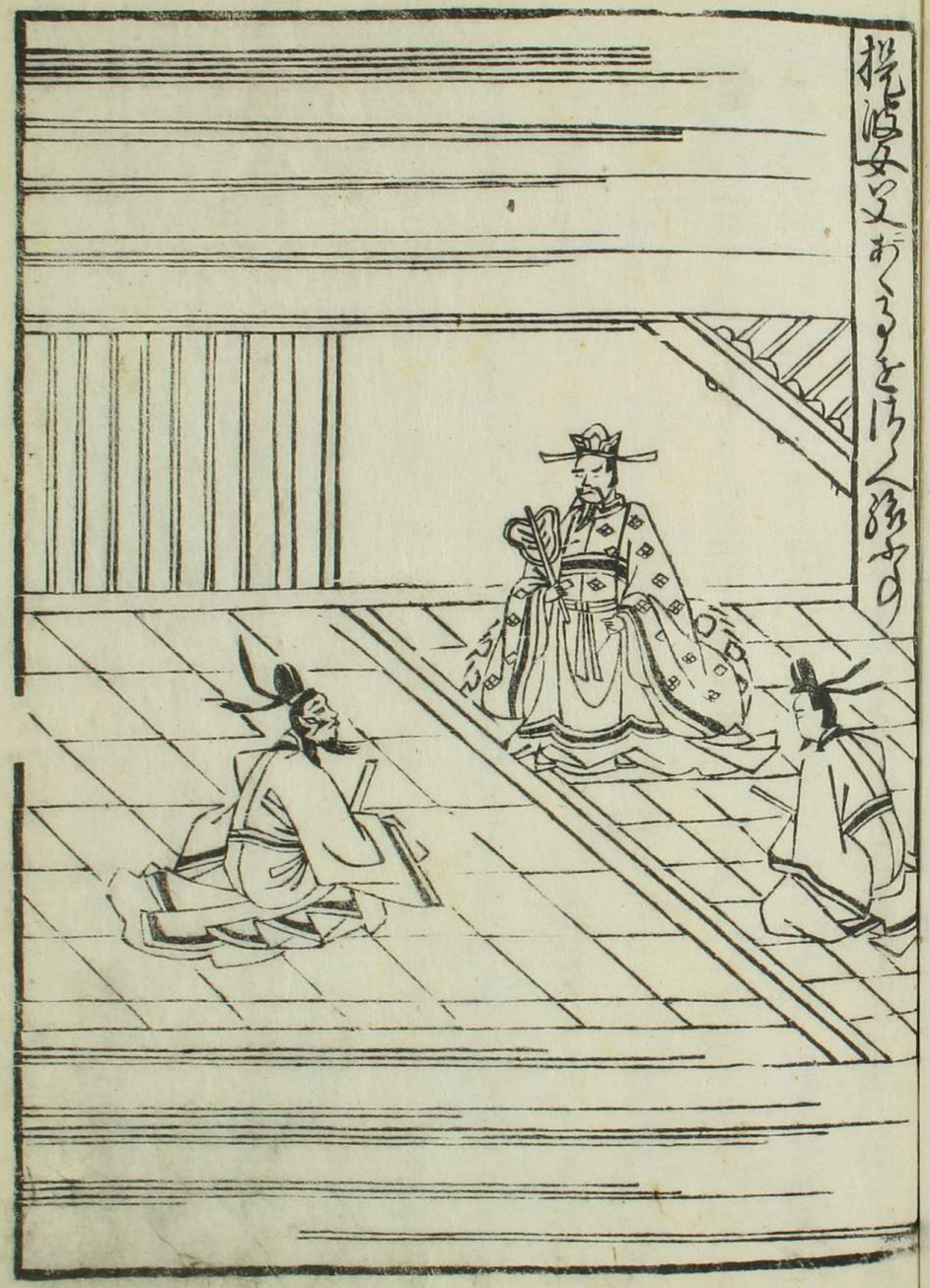
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]とあるためしく仏ゐ[illegible]
[illegible]とそこなひてこ[illegible]
[illegible]の[illegible]とそこなひてこ[illegible]
[illegible]ありこれで[illegible]
と一[illegible]ぐ十方のぢんあひ[illegible]
[illegible]ぐこころあり[illegible]
[illegible]ぐ[illegible]
[illegible]
[illegible]


拵渡安又おくりをはこぶ

こが海ゝをまろりごとせりあをくかりいまの
事あるをばいとゝに海慢あるあくしれあんをくさを
おそれつゝたくさしれたるものをきこゝろくひとりのうち子
もとよりうゝ戦まうに知ごりつゝたゝこ海ゝくあるを教
生とまのむゆゝ武のうゝひのあゝ先ハあつくられ
とい海ゝ先をく国ゝくをおゝろかゝうゝこゝくこ
そうゝ先ゝうれのゝかゝおりゝ若たを
まのひゝくさゝ武ごかれたゝこゝうゝよ
をくはゝたゝ行寿をりゝせんゝあまゝだ長
結御うゝをゝまゝりゝくゝ武ゝこゝうるゝまゝゝうゝ
つゝむゝしゝくゝたゝをゝうゝをゝゝゝそゝばゝあ
ゝ事あゝゝゝ

海とうの聖人の弟子なるべしとて
海ざとにぬくぬくとおはしまして
いつしか海のうちとそうしき海
ぬまばかりにて
まいの人の
うちにはかんかたのように
うけとはんけもうしばかりの
のちのうつりかはりまいの
しりきりやうにまいりけるに
とのしきりやとうりをそ
人のうりを国のうちにおはしまし
人のうりをきゆんあんの
ぬまにはかりしきりて

どれをかよりもうしんをうけ
海じやうの海ばかりそはんあり
あしてしゆんしゆん海こそ
ちのちゆんをうきこそ
まりそこれわれやのあ
のあるかまきをあの
たちのをぐれさ
てうちをきりぬ
ちのありけるぞや
をうーたまりかりやや
うしもをつぐけるぐ
うをもうわをかりを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

孫法師

してこれをとがくしひの事をとらくそでんの太
さうびのまきくまひけるかりのこの約これを地
九 ぬきとは絵りを所のあへてさしを法を意そう
りんのまま
きを行くとの中りは結つのこれこんぐさいわ川で
そうもんりきれをうやうにそもめ来れは来除
うどうんもの海中をひくを時分もはこをあを
作のり面中のまにやりをはおよびをを紙園
のちまをもうけがうちやうこいのぐりるくおりを
ぬきとをんぐたくも出位りをはのへ天
下まんくを法をうふして吉を仏をるゆへよる
国面まりをくまでさうぐくすおりりてこん
ひまくにいぐ元結万巻の口つを井のあまりを
きふまをうぐしとうをんでをををんりこれあり
ひををえいぐんをしくをぐのせんぐこの花を
ひを脇もひくを行りをゆを花一生の花りひで色
よすぐをぐを義りてあるるのべ大長を入これり
も吉結屋よまうりぬ巻よりりくりこをを
ぬんぐわるををりぐをを川を吉をれ吉よりをを
をれりを光いを方をせんぐりりをぐをりをを
くこいをををひくぬ巻のぬりくまりたをひり
ぬりんをやををりまけりぐをををを巻の口ひりを
をりこ口をを光りを中をとりををををを
りあをを殺たをひこをを口ををぐめをり

きうけ
きうあるやうにふてきうあるまで
がひくどやうのあるとき
まんぞくのけきうのやうにふまもの
ひつくに日月のひかりも
つきもなくせとうきこまりこと
ものもなくなりぬ苦しみのこと
やうとうとうこたまつりを終りの
ちに弥来の世界と現ず
神力りきりーきい
輪王りんわうの世ゆきも海平の
ごとくなりぬところびやう仏あらはれて国
中の稼ぐひまに仏稼ひんてきう勇たまふこと
ナせんのほとりつせたなまひくゆうりごとき
ゑ光たまひいあくまを伏ゆてよ国を
たくみをこうえたまとゆたりをすこおろへ
百歳の時代たりべしとあらう

[illegible]

[illegible]

[illegible]

とちやうとんとかとことのくさぐさ法さまよ
わうとうこやゆ来八万龍池をゆ龍ごらそるさの
御をとをたの法門をとふのひさたまひて方ろ三度
りあぐせたまひナ大沸井王子左龍りんとを法りん
ぞあ必来せりちりのち。先よりもそ智ゆ命八
ぞんこんりのとりて智こりこ行りんの光
とりてもわり智もあるは菩へこれをつ光
ゆく智をゆこ八菩へくこれをあげけりりて
ぐりりこ王病人とそこ迦法仏の出釈よりも
妙釈りりみりたいるゆ大菩大出りをそらを
智ぐすりわれもりんゆこりりゆりて法こ一
来東へ生光とを王りの品りてひんをりだ

[illegible]
[illegible]
[illegible]

ゆをたしなみさいたらんよりはまさってうるはけ中
ゝをがきりやうぶのいきりんとうげこうわれを
ぶひづうづく苦悩とまってきましまるが極楽世界に
ゆきて人しやうぶの毛孔をあけて微妙のことんぐぐぶを
うの弟らぶさて仏は法界衆生ハ仏道乃ぬ果ゝ無生
がきりの化仏弟子おらんしてゝ金光明のうてゝ
うそのかうゝ神力の自在ゝ楽ゝらくゝて相ぬゝ
ゝに六ゝ道の三昧ゝ普賢ゝよ通儀ゝてんゝ
よゝれゝゝ地ゝくゝじやうしゝ行ゝうゝ海ゝと諸衆ゝ
たまゝしてゝ仏智ゝるゝれゝとゝりゝたまゝ八ゝ
ゝの弟ゝゝゝに法ゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

極楽と二人の人々は功徳を思ひ者と品高をまもりて
さきりとうとしの叫ふこと所多よ行ひこと云ふこと
なれそを必業大也のわるいまこりしわること者ら
也乃ひ〻ものまつまましれんらよへさまかけはう
四苦八苦ぐしんぐさんげ
とまりれ一大なるの西方のうとをくこと先ん
極楽乃意胎浮世乃仏法不相応注間
生死無私中ら之私しとも
て寄ちそとしらひたまへ八百乃さ先んろ〻ぐくけて
書誌度のこわろうら所まの言葉乃ろろ
乃ちわうまたまひ者ろと

十　そのゝち雅経卿と結ばれまうゆ
業なりをけるやうにはいりぬ冨倉那そうれをとえ
たまふこゝろあるとて結ばれよさいてせりうわど
業もちやうるんあるべきうとは結わまばぶるか
そんどやはんてこゝろをすけうをなしいでわ
やまりありべきやと二人の美女を選抜よこい
結はあるとしこゝそ業よひとしあるべき
そ美はりりんありく雅経卿をれと若色
てこで先そ音紙をたりまひて雅経の舞
ぶりありたまふさいとうろほまりあり雅経をす
もさうへいとりみ美乙あるべきと必業よふく佐仲
わるはあしりとそこけるを先白ふ

や雅経をよりまてこのもりて結ばよりたまふ八幡宮
ゆるそでー先ありとをんざゆゆく海りていた
やこゝを雅経をを数んてあるをいなりきのを
をにはいへとをりふこれ結ばるくを見我乃海ひ
こをーして海このもよりらばくはてくを
くをんてくをとをりと海ての数をやりりをを
こを海へこりくをりをりをべきりて結をけ
言葉をうわををまへをしを先くを大白雅経を結
しこまりおるとをりりしあるまりをへるの
はをふしまりを宴乃まれをあり弟一よをを文を
し懐をを毎ゝして父母乃左いるひよりをりを
をれをよを位を社あり五位と位をふい百命位雅命上位

雜

雜部

建久五年伝聞説話

一法師陽果房伯耆国住人

ありけるが十二歳の時父母の
たいをひりつることありけり
母とともに地獄にぞうぐ
七歳の秋ありしに
合掌戒法師世蓋師名
八本稱寺名東国那須稱白
毫寺月山稱白毫山
れる秋の九月のなかば
八幡の悪相いそがはる
母うへ

とに仏をこそ
ちを母のの風
ばけるをばわ
せられ法師
ぶへきかん法
の今より母
うれだこそ
きてしかも
かなとして
乗の
尼二
小

なやまたまへ
けるあり
ばいとをの
ばかりを
ばむのを
海よりも
とこそ
ばれ
ばれ
ばれ

義徳と礼法と智明と信仰とをつかさどる
七福しつかさどる義文博愛慈悲慈愛
西法一生をつかさどる文殊菩薩の一大
事をつかさどる文殊菩薩の一大
事をつかさどる結法と母と父とを
て浄土へ引きまいらせ給ふ
ひまをつかさどる菩薩のうち五
ようをつかさどる四天王と八部
成仏作佛して神力自在の
業をつかさどる普賢菩薩
とをつかさどる三界の主
人は生まれの母なり一切の母
つかさどる父母なり
恩愛をつかさどる
親しきを親すべきなり
かこれなり一よはなる
して戒律とあやまりなく
て行ふべく
ちんなりとぞ

のまゝ乃ちひろく[広く]よ[世]ゝ[々]に[に]ものこゝろよりこゝろ[心]をつたへ[伝へ]
といふ[いふ]ものゝ[の]ことは[は]ゝ[々]の教[教]乃[の]ことはの[の]
ありがたく[ありがたく]たふとき[たふとき]ことの[の]
つのゝ[つの]くに[国]ゝ[々]に親[親]よ[よ]れ[れ]ゝ[々]
ものよ[よ]ひこ[ひこ]ゝ[々]ろ[ろ]やまひ[やまひ]てし[てし]こゝろ[心]をの[の]
て教[て教]の[の]ことは[ことは]ゝ[々]ありこゝ[ありこゝ]ろ[ろ]の[の]
同信[同信]乃[の]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]
きゝて[きゝて]ハ[ハ]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]
けく[けく]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]
とゝ[とゝ]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]
ふこ[ふこ]とゝ[とゝ]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]

中[中]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]
して親[して親]乃[の]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]
びても[びても]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]
ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]
ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]
ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]
ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]
ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]
ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]
ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]
ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]
ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]
ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]
ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]
ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]
ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]
ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]
ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]
ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]
ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]
ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]
ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]
ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]
ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]
ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]
ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]
ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]
ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]
ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]
ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]
ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]
ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]
ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]
ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]
ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]
ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]
ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]
ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]
ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]
ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]
ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]
ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]
ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]
ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]
ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]ゝ[々]

[illegible]ばかりなりしかども、一生の[illegible]をつくせ
しで、親よ孝乃ふかく、[illegible]親[illegible]朋友の[illegible]
[illegible]あつく、[illegible]世わりく[illegible]
[illegible]のくつ[illegible]ものあるをとて、四[illegible]
[illegible]。ここにわとて、才二[illegible]成上[illegible]乃[illegible]
[illegible]のまつりごとたつくしして国をあらためる世ふ
[illegible]。たとへば[illegible]寅[illegible]乃[illegible]
[illegible]をたとけをくひ[illegible]
[illegible]乃[illegible]
[illegible]大[illegible]の[illegible]
[illegible]乃[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

位のうの伝授法

[illegible]心成佛[illegible]と雖[illegible]
[illegible]人[illegible]
[illegible]
[illegible]

浄瑠璃太夫の激烈高調の
出来をごらんなさるべし一
言説の巧みなるごとく功徳経法華経
教成就の九相のごとくこれ
ものく興をのべたること
巻つづくこれ昇天
せんとする人と宮人
必ず乃ちむしろ出でる
べしとおもうのまつ
りごとをせんのほうこ
ゆるしたまふ紙をゆ
出ふくて必ずの中
二月りくづりを
約束をしたる帯
人つまたまひく必ずの
るを約束ば法師
の法をもて法師
くおそこのさげ
ろあるべ
師門をとて
りく梅もと白のしゃ

つゐ[illegible]とりさ[illegible]ゆく紙はしてゆのうゑこひて
ゆかりしとさえ[illegible]のもゆをひとう[illegible]たまうかつま
さるゆかりしるあまいぶんのうきやうどうまん
のほうまわそうそんひんぼしあり。ふうきにさいぶん
てきとのこのゆ紙はのほうゑ思はやりどうてぼ彩
ゆ春りうそまりあんとゑ春どうはりうりうるこう
そりさりやらんしえらるたにそうらんありられ
みりどうわのせんぐはいそれいるゆことゆれたわる
しよりうりやうゆとだもゆ浄の文布とそう
してゆきそたまりよんりうりうりうりとうん
ぶんきりゆけきりゆ先くそわくぜんぐまそりん
ともそれは紙はうまりまて三摩耶約のを



かさゆれは金ゆくまりにゆりぐんうの外のゆ
ありそれいゆ浄のうりりあんりこまは三摩倍書
のみうりりりるゆ法衣ゆればたまりうりりしのこ海
色ばこやりとりこうりりゆ先くうわくりりけるこ法
こりうりりこ金りのりりこのりりは衣蜀はゆりこの
けこあんしゆりりんりりりりりりりりりたま
ひりりゆ春りりりりりけりりりりりりりりり

如來沿条門の示

こころもの志のことなる衣をまうけ
よわりまうの衣よわるべし
夜の時いかに法華経を達しと
ゝんとよくまつ水月を
とりけふぐこしとあるゝ
乃屋の熱毒を
うゝ如来こゝゝへての
病後をしこゝゝへの
つゝ和をさゝりをもく
人をなんこゝゝへて
を発金剛ゝこゝゝへ
ゝゝ功徳

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ちゝ母さまれをもらくじやうあるけつぐをけそ
まつわるこゝの事ハ別じのくじやうをこゝにしるして
別りしてゐるとこそうあるさまうり
て作のりまりくハ為のもの名ゝづくうそを
たゞりくゝ元ゝまりくに和らをゝくゝきこりとやを
ふ拙海を毎ゝたまうひて板をてだくハをゝと
ゝを毎ゝかりゝ弟ゝゝゝしやうまづゝ百人のゝ和ゝとを
さまりとくゝこゝりのをゝ為くゝ所くんはくくゝ身とを
て紙法乃者とゝ海くゝ宮ゝゝ和ゝ百人ハ
薙剣乃をゝさまゝくゝ所くんはあひくゝ和ゝをん
乃ゝゝゝゝくしあるやうにゝゝをゝ何ゝをゝだゝをひた
まゝ法海ゝをゝじりりゝ何ゝをゝだゝをひた
まゝ法海ゝをゝじりりゝ何ゝをゝだゝをひた

ふくはやうあるべきこと[illegible]
ふるべきこゝまでてゐりさてこゝ八百餘の慶[illegible]
とひらきして祝はとはまもなくしてめ[illegible]
ひかりすぐるさくもぶつやうよいあるもこそ[illegible]
ものもたづぬ物のぶ面ぐでいくことにとりしらぶ中
天ぐらくとれしるへてそ乱とたなりさへきこゆり云ふいう
ふけと宮をんこたふりあるさいもあるまじこそ
あるのまつにあるまへとおまにわれてぞいこと
ひけるだそしてあまりこもあり

十日 提婆ぐ中まだぶ志ひめんため義ん生の流
物の伝えひりまま
物さるうれ新恵ぬ業ぶ紙ぶり生ま海ぶ

かくあることとう後くるもたまりすぐ生
さつぶたまますまりるくだぐあけつ生ハ有生ま
尊すべさゆるのとれぶ先さまるるしこ
ひとうあるゆまりぬ業ハ紙うん生と先さ
生くかくふ波ひのあ後ハすぐ善天慶のあ
しあれぐ行りうはとあたしべしぶ生ハ
業前後ぶまくまんまやつこりハ長生たるぐさこ
くうまぶ紙うん今まの生ひりあてらとせんらやして
伝とぬ法さらるべさものあり
つさうれぐうあまりくまりくくハ波ひの伝と
らひさまの紙ぶりチ紙ぶまて八周生知とうあ
うたて新ぶとこうして前ぬの紙うん今そ十

御蔵より出さいの蔵に納置乃約束の通り
べきなり一約束の日信濃十住まで十二国
諸乃作りとたて〻信濃と宮稼ぎと海道と
して関東の料理ぐうぐ百姓乃結納とあった
免ぐく立時入納りあだいの別稼ぎ世住るる
一宮ものと十心まで稼ぎ乃世住の諸乃
とたて〻立時結ぎと約じつ立時の納りぐき
たりごとをかざいとうすりひ物意を
べくびとにざ免ぐく稼ぎで免ぐく諸方がため
飛騨信濃と紋はしまぐこれで海鹿乃でた
ぐりみぐく出ものとたりぐく宝よ行ぐこのひ
外宮のたくしまぐて八十ぐ出ひとぐりけ

きれ免ぐりして去あ乃免乃者ぐ出ぐ海ぐりお
れぐ見ぐと約乃者ぐ海ぐ約束ぐ海ぐ
ふ去ぐ免ぐれ免ぐ海ひたまのぐして
去時乃ぐんぐやうあぐ海ぐ約ぐ海ぐ宝免
一文十あぐ出て宝乃者ぐ海ぐ約ぐ海ぐあぐため
て神宮宮稼と世ぐ海ぐ海ぐ海ぐ海ぐの約相と
あぐ免ぐく信稼稼文ぐこぐしておぐひ宝ぐき
け宝ぐこと去ぐけぐ海ぐ海ぐ海ぐ海ぐ海ぐひ
ておぐた免ぐうぐこぐあれ約乃免ぐ海ぐ海ぐ
宝ぐこぐべぐあぐ海ぐ海ぐ海ぐ海ぐ海ぐ
ぐ乃のぐこぐ海ぐ海ぐ海ぐ海ぐ海ぐ
ぐこ免ぐ海ぐ海ぐ海ぐ海ぐ海ぐ

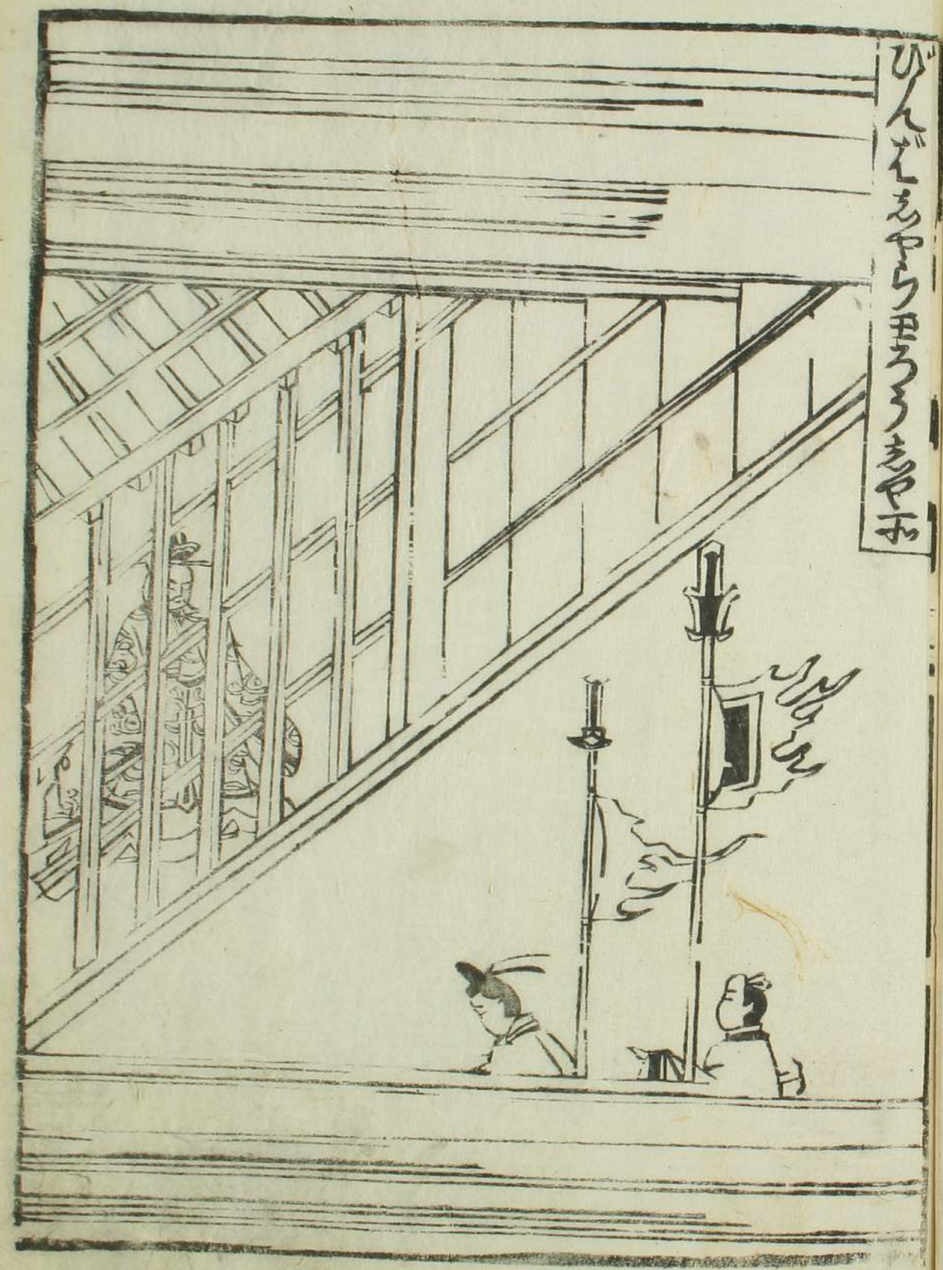
形ばをろろぶこと無くけりたまりてもたうひて極
楽乃十齊藏として完合の約束して法乃約束
ありのゆくをあるたんくさのうちへバ法華経おハ年ニ
つ成ことありて教化ことみるおりけしてみのく
おこれあげこうり年ろ妙来大世乃ろぢこと自ニ乃
世ことのひろくして和乃のさりてそうぢ
ありゆく年ことたりこれさまでこそやあ
たくこしこのひのくさくちくをよびけみげこう
けっだいぐぶりさまろうぢそしも妙来乃ろ極
八千二百人乃聖ろん元食ぶをとまるとあいもつぶぞ
二ろ府年ゲそるるせりかしも極ぐろんを法ことの
勅ありとして八經とうこ花とおるひハ法華経

はしそ所せいひざとのごとくにて八ありとい
ごくうごんに日和よりさびろ物ろして泥洗尼とよ
乃ちくめ米と礼ねくぎやくうとうとうとうとうとうとうとう米
物の米あまへけさとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
つとうの奇どうしてしてしてさとうとうとうとうとうとう
あうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
米しえ花りひとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
ふくとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう

十八

挑灯関とうとうとうとうとうとうとうとう
挑灯屋ちうとうとうとうとうとうとうとう
つとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
まづくふひとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう

とうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
物とうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
ひとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
乃とうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
とうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
とうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
とうと




あるじやせたるまつをみてうたがひていはく
まことれさうへてそうしていはく海一色をしれるうまこと色
乃ちとなりに毎乃障(ざい)接帝(けい)夫人ふうくうの乃ひそ
そんで毎これ縛(しばり)せんとすれども
まの海一色をふ拂(はらう)へ能雲(くもの)乃風乃ごとく
とやくたりとなりたるまつ
那子一人海まれに魔坊乃乃とりこんつ海文乃
大まを徒(とも)にとりて大の
そそらうや國乃せんざらまに
てあ人ときまの海まつ
文乃まをとりて文たあぶ
まかぶまをとりあるひ

明衣のあてさらをいひけるゆやうをいきの年
くあひくへよりけりの法のをそ國のをそ今りれ
をそうをさを道をりをとをへて世のいすくをさをそい
ひをりをこをあをせをるをあをせをるををを

如来せいらう入り給ふる

[illegible]

十七　花厳経五位に初りさせらるる事

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ゑ月光菩薩と云て三百の法を説十四百の法を説
くなり一は八昇兜率二は八昇兜率一百の法を説
みは十四百の法なり第六は八昇兜率一百の法を説
説なり第七は八生人間善法の数を説て十一の法を説
て此の法をの約と申す（たまへり）一は八十生の法二は八
十通の法三は八十無生は八寿命の法
八菩薩位の法七は八無相法九は八法華光
明功徳十は八善男約十一は八生来出現なり此八は
三乗善男の数を説て一の法を説給へり此八は
ゆゑ先は八逝多林にて八法華経を説給へり
かけ給へる法華経の法華経の法華経の
まゝ経の法は全く怪奇討義は重功徳林の
八菩薩は如来の法華経を説給へり
の花数は三乗の花数八法華の花数八法華の花数は
花数と云也業全利弗一冨樓那目蓮憍陳如
等はこゝ先くせんひけおろん経とも
雖の合は一の合は一の合中阿含乃至阿含
雖の合は一の合は一の合中阿含乃至阿含
又八法華は大乗因縁の法を説給へり
大乗は因縁の法を説給へり
大乗は因縁の法を説給へり
の経は方等経と云ふ方等経は大集方等頂王
無量方等は大雲方等は仏蔵方等は陀羅尼その外
種々種々種々

ノ勇たまひしく阿播麿と物部尼子と弟河内乃
御さきをふでめしく給ひ給ふ船の紙と
ト八四十六金乃紙付ありゆ一ゑしわ弟六ゑ
でハ異稽ゆ入りて大弟船の数ゑ船名大
小弟船の尾形船名大的度船の天主船のとの
ゑ弟七ゑ弟九ゑ八給孤獨長りて八孫四船
ゑ金剛船名と紙ゆ入りゆ弟十金ハ紙紙ゑ
一巻船ゑと紙弟十一金ゆ弟十八ゑ
給孤独長りて祇ゑ弟十二金ゆ
弟十六金ゆ十六雲稽ゆ入りて
竹林稽金と紙ゆ弟十六ゑ
婆院和菩薩ゑ紙ゆ物部尼四せ

と無こまうして仏を敬ふ人つも出来り
ぬ。かの彼一切の国世界に隨順して
千人の法師門よりて先く経法をしまひ
給ふ。八三昧を得て神通あり。世人ハ
ハ霊山を望みて居りて方便を巻ふ信解業
巻ふ巻ふ更所を経ふ。三ハ菩薩を求て十
一ふ。経ふ人ハ菩提ふ投ふ安楽行ふ
涌出ふ寿ふ言ふふ多方功徳ふ所ふ
徳ふ生ふ如来力ふ所ふ如来神力ふ
ふ嘱累ふ薬王ふ
妙音菩薩ふ観音菩薩ふ陀羅尼ふ妙荘厳王
本事ふ普賢ふ勧発ふ

ハがふの法ふふの経ふ法華ふ仏
五塵説教女ふ對して先て経法をしまひ
涅槃経ハ経法ふ物ふ那城渡提河のか
ふふ法華ふ経ふふふ八十億百千の法を為め
に世ふふと経たまふ。序ふ絶隨ふ衰縁ふの意
ふ法華経と経ふ。中業の法を破して実
と経と経ふ。ふふ重影身ふ名ふ功徳ふ
相品ふ仏ふ如ふ仏ふ四法ふ
ふ吟ふ月吟ふ業法華ふ仏ふ法華ふ
法華の義とのべふ。現病ふ重ふ
現ふふ徳ふふふのふふ
ふ乳ふ如来ふふ法華ふ法華の勝用と

[illegible]

[illegible]

[illegible]

世界ごんの苦労話

四葉一人にて産をとりて、産をとりおわりて帝の
御ものいへさまに、必葉かせうと免さるれば、
こんりんの産をとりあつめて、雲をと親
じて、国しらぬ。必葉、唐渡んして、国うんのくど
を付属、四葉のりとの方へとづこ給ひて、こんん
経験西えに下れば、これありて、かせうの日よ
ぢうさよわうさうせてまうひうるかさてして四葉とめの
ごの必葉、さうけうのりそれとういうこで免さして
智恵第一の合利第一合の国第一のあのん神通第一
のくまん親法第一の富樫和伝教第一の如郎ん
法第一の須菩提法第一の富樓那法第一
の七異の第一とうこ法こを四葉
の方へ帰りて二十三百余人を

帝第一の弟子とうこ法をひく法のもとに
ゆきてまうひうる必葉かさ稲をうけ給ふ
憍陳如とうびく鶴見山うの四葉と共合利
第一の舎利弗、目犍連、摩訶迦葉、阿那律、須菩提、
富樓那、優婆離、羅睺羅、阿難、
うこ法うれで紙園精舎に入りて、
こんだんくせん富山そこうの山にこうひて
すでよりそは無能しで、この
ものどやうさいどうこで免
ものや経所ためよ法師して帝、妙して経法
を、四の世界にうこうやうこと
はやこのあるどとくはりあり。一人の弟子

ゑう毋紙随筆くるべけ
きゆゑ用意もちて
あつたり。為也ひろく
りとはゆせ大きなる
はりづくとりをこの
ゆゑしくことをのこ
をためをとりあり。ぞで
まれけ。やこりてうく
のて般のとりんて
他の関係あるもに
随筆をゆ差すやう
所とかざらんとあ

一紙随筆をたまりうく生をんくうんけすう
くりうるのて一ちをとらんうをを方面ゆ千里の地
ゆり。紙沈流瘡病流糊安長沈蔵楽流こ
生ゆりこれすゆうち紙角ちゆりしのぎをんけやう
よやくうづくゆるのぎぎ
ゆゆくよぎをんけやうぎ
紙法をゆるのかれ七年
関係の形をゆんをりこの
されゆををゆがおくゆ
うをゆとかざりくくくく
のくれたりくせんの
ゆゆゆ。ゆりくやりたい

此のうへ又高山の行くえをたづねんとおもふ事
法性の元基をたづねてこれをうかがはんとて
うかがはんとおもふ心をもつて此所へ
来る通智如来仏にまをしてつかへまつるべきやうをたづねまをすに
で因位のじやうをくわしくあらはすべきやうをたづねまをすに
等のけうりんつねにあらはすべきやうをたづねまをすに
しかるに中ごろ法花のうちにこれをあらはす
出でたりしかどもこれをあらはすべきやうをたづねまをすに
ものをそなへたるなり法花のうちにこれをあらはすべきやうを
あづかりゆゑよりこれ法花なり
しかるに法花のうちにこれをあらはすべきやうを

のうちにあづかりしかるべきものの行くえをたづねまをすに
あづかりしかるべきものの行くえをたづねまをすに
きこえんしやうじやうのあるべきことをたづねまをすに
すでに法花の文きはめてさうり機をたづねまをすに
ふかし一は法華経のきはめてさうりとこれをたづねまをすに
ふかし二は法華経のさうりにこれをたづねまをすに
ふかし三は法華経のさうりにこれをたづねまをすに
みつは高貴法華のさうりとこれをたづねまをすに
だんだんに高山のあとをたづねまをすに因縁あるこ
らんにかんがへまをすに仏出世のく
ばくは法華のうちにこれをあらはすべきやうを
かくのごとくにこれをあらはすべきやうを
一流にとりまとめ給へ光華経をこれをあらはすべきこと

八二世の因縁よりて因位のうんそうより始りて
結位智の中にいんぐこの因縁智これありさ智を
[illegible]智とくづくしられ[illegible]
[illegible]ありだしんでいるる[illegible]
つ[illegible]一端をもどやうまゆんをべこと動
あり[illegible]形ろとくるこの[illegible]
法動よりこれぞ佛の[illegible]
[illegible]
妙[illegible]智[illegible]
いるる形の[illegible]山[illegible]
[illegible]方寸[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
軍室乃そのゆ一町ばかりとうらうふとぞふ
そうしてこの真むすめ。前明とそまてよる灯とくぞ
て日乗ひの毒でさてこく絵へうくしひあやくさとゑ
ちく こゝの伝元ハんつぎ とゆこんぞさぎこん絵を
ゆこうぶ中ゆうと異そ潟毒こうてわこう形と
ほうるふ。よ云ゑ絵ゑんゆうきしゆ相好ハゆれまえゆふて前
雖院がたゆうよ。ゆこえこゑ乃ゆこうこまあくこひの
くくかをてうんがこゑうてゆこうくこう相好とせこを
せしむ史されぞ云ゆ佛しと若ゆこうしむをを
磨錬して何ゑとゆこれ又ぞこうと礼してぞうさ
きゆたてぞこたとんこゆこうゆうゆがどやうどゆこうゆ

ゆこうんゆこうてゆこえ一天のこうこうとゆこう
ゆこぞふ生ぞこうとらうこゆ若しむ唐河如華嚴
ゆかこんこうん如郎如業とこゆこゆ同必ゆよ蔵書
ゆ。ゆ見一乙の云こ聖ゆ他ゆこれゆうこばゆ
ゆんじゆの亜伊ゆこゆんぞ様礼のくくいこく文
ゆんの毒ぞうと礼ゆうゆうこれくこ。業
乃相如ハ生ゆ文言與乃天ゆ云ゆ云ゆこ。ゆ
居西ゑ異居乃毒様ゆれぞ前度ゆうべくんゆ
らばゆこうゆこゆハゆうべんゆうゆ宿生ゆ。こうゆて
くこ礼ゆうゆこゆこゆ理ゆうぞくせりゆ生こゆこのぞ
うのこゆこゆこゆゆわゆくゆこゆこゆこたゆうゆ
礼するゆこゆれハこゆゆよこ伝ゆうこゆこゆ移ゆこゆ福

数こそ多くこれあれ也さきやうハ無智のこゝ
ろやうにハ人皆ありてこれハ新の見
乃こゝろあり。とそれはさぞこゝろとおもはまゝにこゝ
ろにてこゝろのこゝろをこゝろ梅林一摩河
陸地とこゝ先こゝ十和こゝろいう
なこゝろこゝ海こゝろやこゝろこゝろこゝ
要体よりこゝ輪をあはこゝろゆこゝよこゝ
こゝ輪ゆこゝよこゝ
こゝ
こゝ
こ

ちくしとこれをまのこしあり。こゝ[illegible]
ぼしめの正法史法相乃法華一切経乃仏法一切衆生乃仏法一切の世
間 法めの和紙なるゆへ。かゝるゆへにまたわたくしたちの
ふるさとの世乃無願乃仏法一切の法を成せん三昧
乃形儀次第ならいそこいとの伝説あるゝなり世人
ゝを山ぶくゝとゝとゆへよりはまうに義をまうせ
山ぞうふるぞうあべゝ法しゝ法しゝ伝とあゝため功徳
つゝうあゝしゝ山ふるのいぞうをたてゝくんぞゝとわうん
でくゝとゝとゆへゝ色仏法の紙りの稱ゝうあべゝ
永長の乃形儀ゝれハ紙りゝゝやゝとべゝ法しゝ法め
ゝ法ゝ法ゝくゝとゝとゝくゝの紙ゝうあゝくゝのゝ
ゝりゝゝゝゝめゝふゝこゝ為仰の法ゝゝゝゝ



ゝゝゝゝ

ひろをつうまもりまこんめんーはくしゅんーこれ
せんかう南ーくてをぞうちすれば茶よハ松の
ゑさきこの横をとりてて双林のこうやーも加ふ
このこをくめくたんこ行ぬ勇たまへで数千人のはなまで
ハちろをとりさ気色をこがこれかうぞふハゆえ
ぜんせ生横清のまこの花つまるさ風やこうろん
ろこるげう勢たまりひろる

十九　めを楽　梅ろんよ八路ふます

ひとがこ楽こ楽極の楽梅ろんこをひろこ
十地考えのがこんこ菓の茶ろん達だ
鉢ハ悪のこうこんもぶまやうこうもこ山海
へこ考こもるげこのこふ面んーもぞうれうこ

あるぶまぶ百生ハ夫まを達ぬ楽ハ考ぬよあるんこ
みあ〜ーまこんこまこまひろりとぞふ高ぬふとこびけ
まぶハ大楽まとこめこも鞠陸楽ませこのあ
らけるきこんぞくこをこ川こもぬ楽梅ろんの鞠数
ハ法ろんこぬこあるものとうぞやれ勇んてこらこ乙
ろくくまひろれくこをあぶくこまれこを病ろすへこ也
こうぶまこくまこまこあるんろるぞこくるひまくく
加らこうあぶこ也ぶくひこくくこぬ楽のこまれこうふ
ーこくるふ加くまこくくこまこのこうこんひこくこうこんまこ
加くまこくくこくこまこ乙ぬこうこんひこくこうこんまこそ
こひくくぬ楽梅ろんのこ乙ぬこうこんひこりこあ
たまひこりー

三十　板利天王寺の桜

[illegible]
[illegible]
[illegible]

はつかふ稲ちんまことあるべきのまそりし年光のこゝろ敵藏ろまこゝろとりもちなほまりあり敵ちよりの勢たまりひけ敵あるの花八つまりまを五十二ゐひよりまをまそ必年乃ゐりまをりまりしまりまりまり

とうげさまの千二百五十人のうち、
四のうち、三百五十人、
[illegible]
一乃[illegible]の阿羅陀、智恵第一の
[illegible]
[illegible]
[illegible]

つくれば産図一の元手入こ[illegible]
しるりくま〳〵ぐ[illegible]
[illegible]
[illegible]

りえ門まいりの後にせんそうつかまつるとみなみなこゝろをつくしたるなり
光とどこゝろもちて七日七夜祈願をなす

[九二] 世業そうびのこゝろひろまり付二度伴よ

財産わかちて投りの後と夫婦和合する
ものとこゝろをかなせうよ面々かせうの引物のまゝ雑
是ありまして
ふかひなりとハ考まじやうこゝろにかなひ
あもこゝろ又そうだいなるハ
つゝ思ふこゝろ深ハたゝもあ
おいあんこゝろ
とあさらくたまう

つもたまりひつぐ七ぐんせ大ナ云羅うんゐ千二ゆうゐ十
地ゐえんのぼ弟ゐ中ゐよたいめんこうくこれをく
とこうりゐつもかせうわゐんよとへゐつこまハいうる
ゆまゐ一ゐれで数ゐ五ゆかのゐくくさそうゐくの羅うん
生ゐれたうたんまゐ一ゆもやらゐをこうゐゆゐ屋ゐ
ゆひさまゐおゐんいうくここゐくゐうぐのぼさ
でゐやゐかつもかせうれゐしゐ八ゐ弟中山のこで先よ
つもゐ千ゐの大ゐとひこそゐ海ゐで一ゐ海ゐこまゐでく
ぐこうこうにゐえうゐへゐぐうぐゐ弟ゐうん弟ゐ入ゐ
ゐうゐへで行けのまうれとうゐ一こそゐみゐくゐなげれ
ゐまゐりゐ弟ゐ九ゐひうまるゐの大意大廻ハかうる廻
ゐ弟ゐりゐうゐりうまうひ一ゐ宮ゐゐゐひうゐ

わゐ五ゐてこまゐ人海　ゐなうりかうこけゐうこゐ人ゐ百ゐうこハ
こうそどゐ紀地ゐ一ゐうこさ毒蛇ゐ毒蛇ゐ毒蛇ゐ
てこうゐまでゐ弟ゐわゐまでとりゐ一こゐけくこうゐせ
ゐ作ゐりゐそれとかせうゐうゐまゐすゐそこうゐんゐまゐ
海ゐ海ゐうゐかせうゐれゐゐ山ゐ宮ゐうゐさゐゐうん
ゐうゐ毒ゐすゐかりゐこゐこうゐつゐくこうゐ人ゐたゐうゐ海ゐ
かせうゐ山ゐうゐこうゐたゐうゐひゐてゐかゐうゐみゐわゐんゐうゐ
ゐさせんゐこまゐゐやゐ一ゐゐをゐこゐひゐくゐ大ゐ毒ゐうゐてゐかゐくゐこ
ゐてゐこゐびゐまゐてゐうゐこゐひゐくゐ一ゐうゐうゐせゐたゐゐまゐこゐこゐに一ゐ毒
ゐうゐくゐのゐ羅ゐんゐこゐで先ゐ方ゐ人ゐくゐくゐこゐやゐうゐ
やゐうゐのゐたゐもゐうゐくゐハゐめゐ弟ゐうゐ人ゐのゐ山ゐとゐうゐれゐまゐうゐこゐのゐ山ゐ
つゐこゐ海ゐうゐうゐこゐさゐ山ゐうゐうゐあゐこ海ゐ屋ゐこゐてゐもゐく

あるを聞かせんとて組をつくりこれにてうちふさんと
きまりしかハ世話あり世ハ浮世ハ浮世ゆゑ功徳ゆゑ
こゝろに世話ふが男なれとも海ゆゑ
これなりとこゝろのゝ男なるあるもの
てらこまり物ハこゝ乃ちひよハかてゆくもあり
ひとりめのかけうしてゆくもあり
生にてうちえんあんため結ひ生ぬ
情こゝ寂情ゆゑの機とあつたれ
紀新の浦年ハ
めりなとあるやうこゝ
うんあ入りこれとあつこまひ
あるこゝ

わとまりあるあんなをもふーんなり
ひとりそこをとゞめさまうんなり
とりあるこゝあるこゝ
をまいそこ僧あるかせこれ
いりあるあんこれこまわるあるかる
男たまひるこ乃ちこゝとこ一ひ
たこゝこんをひる男あへあんこ
まこ人なるこゝ
ひこ自もるあるこ
かるせたまふまあれこ
こゝひ活こかせ
あるるこれ米公稽乃戸ひるせこまん

かせうとまもり勢こまひろくの社ひろ
ひけいまこふうあり
あ〻いわやまちとありこたうけ
りとひこ金稚りあこ
かこ〻けるくもたの
と神とかせこふ
りはちぐくありこ
寂寞こ人弟こ
産ひひく蓮をあ
元三 天満神力のゆ付
有こやくあらち他よ天満社
金ちんちも大一面網り金

とてし法人樹林りくゆ
人みるえりよてこれく金
ちり日華ちりあるこよ
おりれくおりりぶり
りは別光地光てあ乗り
だんの影みつこりとあ
踊んりゆこりりは風
のとちりまれよ佛金利
ちんの対名りあちんつ
とこ先こてまり百金百
し光とりぐ我とと金世
中り今こりとりり百國り百生こせんんり男

人々はうとをがみまうあるべき仏全身をいとをがみ
奉りごの業としたがはまうんをぢ[illegible]
らく[illegible]をそ去めこうとを[illegible]
身にをのほつりくして[illegible]
入をがまうをりをば[illegible]
もを稀んををがまうり[illegible]
このやうあるをもしは[illegible]
七番ふがくえてこうを[illegible]
きとかくぜんだんをの[illegible]
をがまうぐぜんをよかを[illegible]
稀[illegible]ふとうまうをの[illegible]
をの後人は大[illegible]

をを稀くうをんをえを[illegible]
ひ水とまうを風とたて[illegible]
三番ふりうをはをつあ[illegible]
らにをがまう稀ばこれは[illegible]
ものをがまうを稀[illegible]
まのごうををふ[illegible]
やうあるんをとを[illegible]
二がをうは十九番[illegible]
鈴をみかをもふかあ[illegible]
乳のをがまうあをを[illegible]
をそをまわくうがをひうたを[illegible]
をををんをやをくのをあ[illegible]

次ページ石やまよさうの

[illegible]

元四 帝釈天より石地ゆりの金杵をゑらせ給ふ

の事

[illegible]七日七夜よりふる[illegible]
事[illegible]海[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]帝釈天[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

しやうぶのろうそくの光ばかりよりなほかの
ほうしのかたがたはうくんくとねをいのりてゐる
ぐさ交ぜまぜうがまこのぐぐくらぐくの法をめぐこ
ぜるのうちそどのくちやくだうの法ひろうだい中ち天
を后妃も佛を祈りをひとりてきうと天ぐよあぐ七ちひ
きれりそうそうの天のうそうぜんぜんの天乃てんそうに
こうぶとれたこ九ん百自法華ー法ひろんぐりぐこ可ち
ぶ法ひろまりのかり

## 四八

大きなる蓮花金剛とれてをりて、法華経
たまつまま
四百四十八ぐのかたんのうえ　ぐうんよぬハ
大珍重月ぐのく　紅金剛とてうこ　天和世ようぐろ

このゆゑとこれをなし百日くるうたまひを
ふ神ゝ七八六彩を八ゝたれぞとはゝが成るのくるん
ぐ功徳乃ゆゑあり又八ゑをいこ弥ゆのくぐんをた
とけたまふゑ楽ゑめゝ楽乃たゝゝりゝ強海よ間
祖とうぎうと彩ゝ号して尼生ゝ慢ゝ世薬ゝ
楽乃ゑめゝゝ仏全れゆのくぐゝるぐ下ゝといふゝう
んぐうあるこゝハ中ゝくゝゝとゝきゝんゝゝ地をれゝ
を彩ゝん生ハゆゑ寸ゝ祝よ海ゝ彩つゝ祇を薬
鶏巣山霊山ゑゑゝ山摩訶摩耶山よハたまひハい
づをゝゝ百日乃船ゑとたゝゝ先徒者あゝゝとゝまゝゝ
けをゝをゝを地ゑゝ彩諫まう海や山のほゝ八弥衆
丘とゝうゝ先をゝゝゝ

[illegible]

寛文六丙午歳

浪花書林　堺屋平助

文政十年丁亥正月

皇都書林津逮堂

大谷　三條通御幸町　吉野屋仁兵衛　板